

| | | | | | | |
|------|----------|---------------------|-------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--|
| 事業番号 | 09 04 06 | 事業改善シート（令和6年度実施事業分） | <input type="checkbox"/> 当初要求 | <input type="checkbox"/> 当初予算案 | <input type="checkbox"/> 補正予算案 | <input checked="" type="checkbox"/> 点検 |
| 事業名 | 水産振興事業 | | 部局 | 農政部 | 課・室 | 園芸畜産課 |
| | | | 実施期間 | S25 ~ | E-mail | enchiku @ pref.nagano.lg.jp |

1 現状と課題

本県の水産業は内水面養殖業と河川湖沼漁業からなる。養殖業では、信州サーモンをはじめとする信州ブランド魚の生産が行われているが、小規模事業者が多く、経営の安定が求められる。河川湖沼漁業では、高齢化と担い手不足が進展するに従い、組合の収入減少により増殖放流量が少なくなり、遊漁者の減少を招いている。

2 事業目的

本県の水産業を持続的に発展させるために、河川湖沼における自然生態系の生産力を生かした水産資源の増殖や、特徴ある漁場づくりなどにより活力ある漁協経営を実現するとともに、消費者や実需者から求められる魚づくりで儲かる養殖業の実現を目指す。

3 事業目的を達成するための取組

① 信州サーモン、信州大王イワナのブランド化に向けた種苗生産・供給

・実需者等のニーズに応えブランド化を図るため、信州サーモンと信州大王イワナの稚魚を生産し、県内養殖業者に安定供給



信州サーモンの出荷の様子

② 諏訪湖におけるワカサギ等有用水産資源の増殖技術の開発

・ワカサギの採卵量を安定させ、資源の増殖を図るとともに、湖内で捕獲した親魚を用いた新たな増殖技術を開発

・テナガエビの種苗の大量生産技術を開発するとともに、諏訪湖に適した資源管理方法の確立に向けた調査を実施

③ 外来魚等の食害防止に対する支援

ブラックバス等外来魚やカワウによる魚の食害を防ぐため、漁協が行う駆除や追い払い等の取組を支援

4 成果指標

(推移の凡例 ↗: 改善 ↘: 悪化 →: 変化なし —: 数値なし)

| No. | 指標名 | 単位 | R4年度 | | R5年度 | | R6年度 | | R6年度 目標値 | 達成 状況 | 目標値設定理由 |
|-----|------------------------|----|--------|--------|------|--------|------|--------|-------------|---|---------|
| | | | 実績 | 実績 | 推移 | 実績 | 推移 | | | | |
| ① | 信州ブランド魚の生産量 | t | 431 | 350 | ↘ | 390 | ↗ | 450 | 未達成 | 第4期長野県食と農業振興計画におけるR9年度達成指標(485t)に向け、5カ年ロードマップで2年目(R6年度)の目標として位置付けた450tを記載した | |
| ② | 諏訪湖におけるワカサギ等の増殖技術研究課題数 | 課題 | 3 | 4 | ↗ | 4 | → | 4 | 達成 | 農業技術ステップアッププログラムの短期(R5~9年度)課題のうち、R6年度における取組課題数とした | |
| ③ | 外来魚の駆除尾数 | 尾 | 46,461 | 75,271 | ↗ | 82,676 | ↗ | 54,700 | 達成 | R3年度駆除実績(尾数)の5%増を目標とした | |

5 本事業が貢献する総合5か年計画の施策分野と達成目標

| No. | 施策分野(施策の総合的展開名) | 達成目標 (☆印が付いているものは主要目標) | 単位 | 直近3か年の状況 | | | | | | 目標 | |
|------|-----------------|---------------------------|----|--------------|-------|--------------|-------|--------------|-----------------|--------------|-------|
| | | | | 年/年度 | 数値 | 年/年度 | 数値 | 年/年度 | 数値 | 年/年度 | 数値 |
| 2-1① | 成長産業の創出・振興 | ☆農業農村総生産額 | 億円 | 2022 (R4) | 3,719 | 2023 (R5) | 3,911 | 2024 (R6) | 4,346 (県推計値) | 2027 (R9) | 3,700 |

6 事業コスト

(単位: 千円、人)

| 区分 | 予算額 | | | | | 決算額 | 職員数 |
|------|--------|---------|--------|--------------|--------|---------|------|
| | 前年度繰越 | 当初予算 | 補正予算等 | 合計 (予算現額) | うち一般財源 | | |
| R6年度 | 1,726 | 112,790 | 0 | 114,516 | 67,307 | 108,712 | 29.5 |
| R5年度 | 22,572 | 102,576 | 0 | 125,148 | 54,257 | 101,651 | 29.5 |
| R4年度 | 0 | 108,147 | 44,900 | 153,047 | 73,826 | 122,174 | 29.5 |

| | | | | | | |
|------|----------|---------------------|-------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--|
| 事業番号 | 09 04 06 | 事業改善シート（令和6年度実施事業分） | <input type="checkbox"/> 当初要求 | <input type="checkbox"/> 当初予算案 | <input type="checkbox"/> 補正予算案 | <input checked="" type="checkbox"/> 点検 |
| 事業名 | 水産振興事業 | | 部局 | 農政部 | 課・室 | 園芸畜産課 |

7 主な取組実績と成果

①信州サーモン、信州大王イワナのブランド化に向けた種苗生産・供給

- ・令和6年度の信州サーモンの種苗供給量は44.7万尾であり、過去最高実績（R5年度：42.8万尾）を上回った。
- ・令和6年度の信州大王イワナの種苗供給量は9.6万尾となった。

②諏訪湖におけるワカサギ等有用水産資源の増殖技術の開発

- ・ワカサギ採卵量の安定化、資源増加を目的とした試験2課題に取り組んだ。
- ・テナガエビ種苗の大量生産技術の開発、諏訪湖に適した資源管理方法の確立に向けた試験・調査2課題に取り組んだ。

③外来魚等の食害防止に対する支援

- ・県単の外来魚等食害防止対策事業により、外来魚対策7団体、カワウ対策7団体、ミンク対策1団体の取組に経費補助し、漁業被害防止対策を推進した。
- ・上記事業により、外来魚82,676尾、カワウ66羽の駆除に寄与した。

8 成果指標の達成状況に関する要因分析

| 指標 | 内容 | R5年度推移 | | R6年度推移 | | 達成状況 | 結果 |
|---|------------------------|--------|---|--------|---|------|-----|
| ① | 信州ブランド魚の生産量 | R5年度推移 | ↘ | R6年度推移 | ↗ | 達成状況 | 未達成 |
| R2年度の新型コロナ流行により、先行きの不透明感から養殖業者が種苗を買い控えたことで、当時の稚魚が出荷サイズとなるR5年度は生産量が減少した。R6年度は回復傾向にあり、R5年度より生産量が増加したものの、目標は未達成となった。 | | | | | | | |
| ② | 諏訪湖におけるワカサギ等の増殖技術研究課題数 | R5年度推移 | ↗ | R6年度推移 | → | 達成状況 | 達成 |
| ワカサギ及びテナガエビの増殖等技術開発に向け、試験研究を進めている。R6年度は目標とした4課題全てに取り組むことができた。 | | | | | | | |
| ③ | 外来魚の駆除尾数 | R5年度推移 | ↗ | R6年度推移 | ↗ | 達成状況 | 達成 |
| 地域振興局を通じて漁業協同組合等団体へ外来魚等食害防止対策事業を周知し、R6年度は10団体がカワウや外来魚等の食害防止に対する支援を受け、目標を大幅に上回る取り組みを行うことができた。 | | | | | | | |

9 今後の事業の方向性

(1) 上記7、8及び県民の意見等を踏まえた課題

- ・信州サーモンは、R5年4月のG7外相会合夕食会への提供などにより県内外から注目が集まり、需要に供給が追いついていない状況である。R6年は、新型コロナの流行による先行きの不透明感から養殖業者が種苗の買い控えをしたことにより減少したR5年に比べ、回復傾向にあるものの、未だ需要に供給が追いついていない。引き続き、種苗の安定供給に努めるとともに、飼育期間の短縮や病気などによる損失を低減する技術を開発し、生産効率を向上させる必要がある。
- ・ワカサギ及びテナガエビについては、諏訪地域の住民から、特産物として漁獲量増加の要望が強く、資源量増加のための技術開発と速やかな技術普及が求められている。
- ・カワウや外来魚等による漁業被害低減のため、漁業協同組合等団体による外来魚等食害防止対策事業を活用した取り組みが進められているものの、被害はいまだ大きい。最新知見等も活用し、継続した取り組みが必要である。

(2) 事業改善の方策

- ・信州サーモンの種苗供給量は新型コロナ流行によりR2年度に落ち込んだもののR3～5年度に徐々に持ち直し、R6年度は過去最大の供給量となった。引き続き種苗の安定供給に努めるとともに、2～3年後の生産量増加のため、養殖業者への生産効率向上のための技術支援を継続する。
- ・R6年度に取り組んだワカサギ及びテナガエビに関する取組の継続と今後の課題への対処により、増殖技術の開発と速やかな技術普及を行う。
- ・カワウや外来魚等による漁業被害低減のためには、最新知見等を活かした漁業協同組合等による継続した取組が求められる。漁業協同組合等が効率よく対策を講じていくため、経費の補助や最新の知見等の普及指導の継続に努める。

| | | | | | |
|-----|---------------|----|-----|-----|-------|
| 事業名 | 水産振興事業 | 部局 | 農政部 | 課・室 | 園芸畜産課 |
|-----|---------------|----|-----|-----|-------|

| 細事業 No. | 細事業名 | R4年度 決算額 | R5年度 決算額 | R6年度 決算額 |
|----------|-----------------------------|--------------|--|--------------|
| 1 | 水産試験場種苗開発費 | 28,171 千円 | 26,767 千円 | 31,086 千円 |
| No. | 細事業を構成する主な取組 | 実施方法 | 令和6年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット） | |
| 1 | ニジマス種苗供給 在来マス・信州サーモン種苗供給 | 直接 | 養殖魚の品質向上及びブランド魚普及のための種苗供給を実施。 信州サーモン 44.74万尾 信州大王イワナ 9.6万尾 ニジマス 卵219万粒 イワナ 4.78万尾、卵5.0万粒 | |
| 2 | アユの種苗供給 | 直接 | 河川での水産資源増大及び養殖魚の品質向上のための種苗供給を実施。 アユ 39.35万尾 | |
| 3 | シナノユキマス・フナ等種苗供給 | 直接 | 河川での水産資源増大及び養殖魚の品質向上のための種苗供給を実施。 シナノユキマス 89.0万尾 フナ 1.06t ウグイ 21.2万尾、卵203万粒 | |

| 細事業 No. | 細事業名 | R4年度 決算額 | R5年度 決算額 | R6年度 決算額 |
|----------|-------------------|--------------|--|--------------|
| 2 | 水産試験場試験研究費 | 16,632 千円 | 17,611 千円 | 15,279 千円 |
| No. | 細事業を構成する主な取組 | 実施方法 | 令和6年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット） | |
| 1 | 増養殖技術の改良・確立 | 直接 | 増養殖技術の高度化のための魚病対策、資源管理技術の開発研究を実施。 取り組む研究課題数 5 件 | |
| 2 | 市場性の高い品種の開発 | 直接 | 品質の良い養殖魚を生産するための優良品種の開発を実施。 取り組む研究課題数 2 件 | |
| 3 | 水産環境の保全 | 直接 | 水産資源の保護培養のための環境保全対策研究を実施。 取り組む研究課題数 2 件 | |

| 細事業 No. | 細事業名 | R4年度 決算額 | R5年度 決算額 | R6年度 決算額 |
|---------|--------------|-------------|--|-------------|
| 3 | 水産試験場技術指導費 | 3,852 千円 | 3,286 千円 | 3,625 千円 |
| No. | 細事業を構成する主な取組 | 実施方法 | 令和6年度実施内容(実績) (上段:事業概要、下段:活動によるアウトプット) | |
| 1 | 養殖漁業指導 | 直接 | 養殖業の発展を図るため、魚病診断・対策指導など安全・安心な魚づくりに関する指導及び養魚場巡回指導を行う。また、養魚技術講習会を開催。 指導件数439件、講習会1回 | |
| 2 | 河川湖沼漁業指導 | 直接 | 河川湖沼漁業の発展を図るため、外来魚対策など環境保全指導、増殖手法の普及や漁場管理の指導を実施。 指導件数296件 | |
| 3 | 寒天製造技術指導 | 直接 | 良質な天然寒天の安定生産を図るため、藻の性状分析、製品等の依頼分析を実施。 寒天依頼分析件数172件 | |

| 細事業 No. | 細事業名 | R4年度 決算額 | R5年度 決算額 | R6年度 決算額 |
|---------|--------------|--------------|--|--------------|
| 4 | 水産試験場運営費 | 59,263 千円 | 44,413 千円 | 56,126 千円 |
| No. | 細事業を構成する主な取組 | 実施方法 | 令和6年度実施内容(実績) (上段:事業概要、下段:活動によるアウトプット) | |
| 1 | 水産試験場の円滑な運営 | 直接 | 水産試験場の円滑な運営・管理を実施。 県内4試験場・試験地の運営 | |

| 細事業 No. | 細事業名 | R4年度 決算額 | R5年度 決算額 | R6年度 決算額 |
|---------|----------------|-------------|--|-------------|
| 5 | 外来魚等食害防止対策事業 | 1,562 千円 | 1,506 千円 | 1,470 千円 |
| No. | 細事業を構成する主な取組 | 実施方法 | 令和6年度実施内容(実績) (上段:事業概要、下段:活動によるアウトプット) | |
| 1 | 外来魚等食害防止対策推進事業 | 直接 | 外来魚等食害防止対策事業を推進するため、調整等事務を実施。 打ち合わせ会議1回 | |
| 2 | 外来魚等食害防止対策事業 | 補助金 | 外来魚等による漁業被害防止のため、それらの駆除及び食害防止に要する経費補助(補助先:漁協等)を実施。 外来魚対策7団体、カワウ対策7団体、ミンク対策1団体 | |

| 細事業 No. | 細事業名 | R4年度 決算額 | R5年度 決算額 | R6年度 決算額 |
|---------|---------------|----------|---|----------|
| 6 | 諏訪湖環境改善対策事業 | 6 千円 | 11 千円 | 4 千円 |
| No. | 細事業を構成する主な取組 | 実施方法 | 令和6年度実施内容(実績) (上段:事業概要、下段:活動によるアウトプット) | |
| 1 | 漁場活性化のための取組検討 | 直接 | 地域の関係団体や行政機関が参画する連絡会議に出席し、生息環境改善の取組等について、情報共有及び意見交換を実施。 連絡会議1回 | |

| 細事業 No. | 細事業名 | R4年度 決算額 | R5年度 決算額 | R6年度 決算額 |
|------------|---------------|-------------|---|-------------|
| 7 | 漁業指導事業 | 922 千円 | 2,866 千円 | 1,122 千円 |
| No. | 細事業を構成する主な取組 | 実施方法 | 令和6年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット） | |
| 1 | 内水面漁場管理委員会の運営 | 直接 | 漁業法に基づき設置が義務付けられた委員会で、知事の諮問事項等を協議。 委員会 3回 | |
| 2 | 漁業指導調整事業 | 直接 | 適正な漁場管理を図るため、漁業協同組合の法令遵守等を指導するとともに、漁協の経営改善に向けた講習会を開催。 講習会 1回 | |
| 3 | 組合検査指導事業 | 直接 | 健全な漁協運営を図るため、漁業協同組合の業務及び会計状況の検査を実施。 会計状況の検査12漁協 | |
| 4 | 漁場利用調整事業 | 直接 | 漁業権者からの申出がなかったため、協議会は開催されなかった。 | |